

# 釧路南ロータリークラブ会報

第18回 例会報告 202011.20 通算1826回

・点 鐘 奈良会長

・ロータリーソング  
「それでこそロータリー」



ソングリーダー 長江 勉会員

・誕生祝  
伊東 良孝会員 S23. 11. 24 (72歳)

・会長挨拶



みなさんこんにちは。

本年度18回目の会長挨拶をさせていただきます。先週の阿寒での観楓会例会参加いただきました皆さんお疲れ様でした。コロナ感染が増えてきた中での開催となり一抹の不安はありましたが、親睦委員会はじめ皆様のご協力のもと楽しい時間を過ごすことができました。ありがとうございました。

また、17日火曜日には菊地幹事と共に釧路市役所を訪問し感謝状をいただけてきました。釧路動物園に梨を寄贈させていただいた事に対する感謝状となります。

本日は“ロータリー財団月間に因んで”ということで先月に続いて長倉委員長にお話しをいただく事になっておりますので長倉委員長宜しくお願い致します。

コロナの感染につきましてもここ数日で全国的に爆発的な増加傾向にあります。

会員皆様におかれましては日々の感染対策をしっかりとおこない健康管理に注意いただきたいと思います。

本日も会員皆様に有意義な時間になればと思います。

以上会長挨拶とさせていただきます。

ありがとうございました。

・幹事報告



- \* 11月のロータリーレートは1ドル104円です。
- \* 各ロータリークラブ様より11月プログラムと会報が届いております。
- \* 釧路市民活動センターよりわっとだよりが届いております。
- \* 釧路南ロータリークラブより梨100キロを寄贈し、釧路市長より感謝状をいただけてまいりました。各資料は回覧しておりますのでご一読下さい。

## ・委員会報告 親睦活動委員会



- ・本日のニコニコ献金  
長江 勉会員 釧路南ロータリークラブのメンバーと楽しいゴルフが出来ました。

## 広報メディア委員会



フェイスブックでページを開きましたので、フェイスブックやられている方はフォローお願いします。

## ・本日のプログラム

### 「ロータリー財団月間に因んで」

担当 ロータリー財団・米山委員会

### ◆長倉ロータリー財団米山委員長



今月は、財団月間という事で財団米山委員会より財団の歴史について話させていただきます。

ロータリー財団は、国際ロータリークラブ連合会（後の国際ロータリー）の会長アーチ C. クランフ（Archibald (Arch) Cooper Klumph 1869～1951）の夢から始まりました。1917年6月、彼は「寄付による基金をロータリーで作る、世界的規模で慈善、教育、その他の社会奉仕の分野で何か良いことをしよう」と米国ジョージア州アトランタ国際大会で提案し、採択されたのです。しかし、彼の熱心さにもかかわらず、寄付はなかなか集まりませんでした。実際、このロータリー基金（ロータリー財団の前身）に最初の寄付があったのは数カ月後で、1917年、米国ミズーリ州カンザスシティRCからの寄付26ドル50セントというささやかなものだったのです。当初、これはクランフ会長への記念品のための購入資金でしたが、カンザスシティRCが記念品の代わりに基金へ寄付することを決定したものです。次の寄付は、米国カリフォルニア州サンフランシスコRCから寄せられました。しかし、6年経っても基金はやっと700ドルに達したに過ぎなかったそうです。その後、ようやく5,000ドルにまで成長したロータリー基金は、1928年のミネアポリス国際大会で「ロータリー財団」として認証され、国際ロータリーから独立した別機関となりました。そして、1931年に信託組織となり、1983年に米国イリノイ州の法令の下に非営利財団法人となって、現在に至っています。<ロータリー財団の父>「ロータリー財団の父」と讃えられるアーチC.クランフは、1869年6月6日、ペンシルバニア州コネチカットの貧しい家庭に生まれました。幼少の頃、両親と2人の兄と共にオハイオ州クリーブランドに移住。家計の足しにするため、12歳で学校を辞めて仕事についたそうです。仕事をしながら、彼は夜間学校にも通い、18歳の時、キューヤホガ木材会社の雑用係の職につきました。その後、どんどん昇進して、最終的にはその会社の総支配人、そして経営者になったのです。彼は、製箱会社や汽船会社、銀行の社長、不動産業などでも、経営手腕を発揮しています。また、優れたフルート奏者として、クリーブランド交響楽団で14年間に亘って活躍したことで知られています。1911年、クランフは「木材卸売ならびに小売」の職業分類でクリーブランドRCの創立会員となり、翌1912年に同クラブの会長をしています。熱心なロー

タリアンだったらしく、友人達は彼のことを「寝てもさめてもロータリーだ」と評していたと伝えられています。彼は、クラブ会長としての最後のスピーチで、今後、クラブが多くのことできるように「非常時基金」を作ることを提案しました。この提案が、彼が 1916～17 年度の国際ロータリークラブ連合会の会長を務めた時の提案に繋がったとされています。また、彼は 1914 年に国際ロータリークラブ連合会の理事になり、1915 年に採択された標準ロータリークラブ定款・細則の制定に携わった責任者であったことでも有名です。さらに、ロータリーに地区を設け、地区ガバナー職をつくり、年次地区大会を確立したのも、彼の業績なのです。驚くべきことに、これらの彼の活躍は、第一次世界大戦（1914～1918 年）の最中の出来事でした。1928 年のミネアポリス国際大会で「ロータリー基金」が「ロータリー財団」と改称された折、当時、管理委員であったアーチ C. クランプは次のように述べています。「我々は、この財団を今日明日の時点ではなく、何年、何世代の尺度で見つめるべきです。なぜなら、ロータリーは幾世紀にもわたる運動だからです」一。実際、彼が 1928 年 9 月号のロータリアン誌の記事で主張した「これからの財団プログラム：学生の交換、グループの交換、国際事業関係を通じての友好」は、その後、財団事業として実施された奨学金、研究グループ交換、マッチング・グラントなどの形で実現しています。まさに、彼は「ロータリー財団の父」と呼ばれるに相応しい人なのです。

<最初の補助金> 1929 年、ロータリー財団は、初の補助金 500 ドルを「身体障害児童保護国際協会」へ贈りました。これについては、少し裏話があるのです。実は、ロータリーの創始者 ポール P. ハリスが匿名で 500 ドルを財団に寄付し、その 500 ドルを「身体障害児童保護国際協会」へ寄贈することを要望したという話が残っているのです。この協会は、ロータリアンだったエドガー F. アレン (Edgar Fiske Allen 1862-1937) (通称；ダディー・アレン (Daddy Allen)) が創設したもので、後に「全米イースター・シール協会」(米国の慈善団体) へ発展したことも知られています。このダディー・アレンの独創的な身体障害児童援助活動は、既に 1919 年に始まりました。障害者のリハビリテーションを援助しようという彼の考えは、当時、多くのロータリアンの心

を捉えていて、一時は「ロータリーの目的（綱領）」の一つに提案されたほどだったのです。この最初の財団補助金は、その後のロータリー財団の方向性を大きく決定づけたと言ってもよいでしょう。それは、「障害のある人のために、困窮している人のために、そして青少年のために」という方向性です。例えば、3-H (保健、飢餓追放、人間性 尊重) 補助金プログラムは、まさにこの方向性によるものです。ポリオ・プラスにしても、「リハビリテーション」を超えて、「一生の障害または死に至る小児病の予防」にまで発展させたプログラムです

現在の財団基金からは、奨学生、VTT、地区補助金、グローバル補助金、ポリオ・プラスに利用されています。別紙昨年度の財団の収支をご案内いたします。当地区では、年間一人 100 ドルと呼びかけられておりますが、本来は一人 150 ドルです。財団月間でありますので、お忘れのないよう寄付をお願いいたします。



ロータリーは機会の扉を開く



### ・次回のプログラム

11月27日(金)

「クラブフォーラム」

会場 ANA クラウンプラザホテル釧路 12:30～

担当：会長・幹事

・点 鐘 奈良会長

今週の会報担当：佐藤真之介会員